

宮島地域コミュニティだより



令和6(2024)年3月発行

編集・発行／宮島地域コミュニティ推進協議会

TEL44-2000 FAX: 44-2008

ホームページ <http://miyako.hatnet.jp/>ブログ <http://miyajima1.exblog.jp/>

HP



ブログ

第10回環境標語コンテスト表彰式



1月9日(火)、宮島学園で、環境標語コンテストの表彰式を開催しました。

今年度は、149作品の応募があり、14作品が入賞しました。また、一般財団法人広島県環境保健協会主催の令和5年度環境と健康のポスター・標語コンクールに宮島学園児童生徒の13作品を応募したところ、2作品が奨励賞に選ばれました。

奨励賞を受賞した2人には、トロフィーと賞状と副賞の図書カード、その他の入賞者には賞状と副賞の図書カードを手渡しました。

このコンテストに参加した宮島学園の児童生徒には入選作品を印刷したクリアホルダーを、一般の方には市指定のゴミ袋を参加賞としてお渡ししています。入選作品は12月2日～3日に開催されたetto宮島交流館まつりでも披露し、現在はetto宮島交流館のロビーに掲示しています。

環境標語コンテスト入賞作品

(一般財団法人) 広島県環境保健協会令和5年度環境と健康のポスター・標語コンクール

★奨励賞

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| ・うつくしいところでまもるかみのしま | (宮島学園1年生 武内 佑弥) |
| ・まあいいや その一言からはじまる 環境はかい | (宮島学園3年生 永田 利正) |
| ***** | |
| ・まもりたい わたしのすきなみやじまを | (宮島学園2年生 乙木 希菜) |
| ・ちょっとまって ゴミを分けよう リサイクル | (宮島学園2年生 山下 颯介) |
| ・かみのしま人のルールをまもろうよ。 | (宮島学園2年生 山田 洛) |
| ・ゴミすてる それが自分の心もよごす | (宮島学園4年生 三船 日和) |
| ・よごさない 自分がすれば、みんなも変わる。 | (宮島学園5年生 高野 一貴) |
| ・よごさない豊かな自然の宮島を | (宮島学園6年生 佐々木雄生) |
| ・ポイ捨てで 地球はきっと 泣いている | (宮島学園7年生 丸本 紗愛) |
| ・人と自然 とともに支え合い 命をつなぐ | (宮島学園7年生 渡邊あかり) |
| ・まもろうよ 1人の意識で 変わる島 | (宮島学園8年生 亀山 希美) |
| ・宮島を 汚すも壊すも あなた次第 | (宮島学園8年生 村上 幸聖) |
| ・「汚さない」未来は変わる その意志で | (宮島学園9年生 沖田 裕香) |
| ・売りっぱなしはやめて 回収するのがあたりまえ | (一般 白水 浩) |

(敬称略)

◆餅つき・松明づくり

12月22日（金）に、宮島学園で、餅つきと松明づくりを開催しました。

三味線を伴奏に歌われる「餅つき唄」に合わせて杵（きね）を振り下ろし、おいしいお餅ができました。

午後からは、5年生以上の児童・生徒が、一人一本ずつ、小松明（こたいまつ）づくりに挑戦しました。独特の縄の結び方、男結びに悪戦苦闘しながら、地域の方々に支援していただいて、なんとか完成しました。体育館前では、大松明2本を商工会青年部の方々と一緒に作成しました。大晦日に、一本は宮島学園の生徒たち、もう一本は商工会青年部で担ぎ、年納めの行事を無事終えることができました。



商工会青年部と一緒に作る大松明

◆宮島学園 PTA 講演会



1月26日（金）に宮島学園で、宮島学園（旧宮島小・中学校）卒業生で、バレーボールの全日本代表にも選ばれた、綱嶋久子（旧姓向井）先生による講演会が行われました。

「自分自身が成長するための日々の心構え」「目標に立ち向かう子供たちに親としてどう関わっていくべきか」等、対談形式でお話し頂きました。全日本代表時の話や「東シアローズ」在籍時の主将・エースとして活躍した経験に基づいたお話に加えて、おてんば娘だった宮島での子ども時代の話、また、生徒や保護者からの質問にも丁寧に答えて頂き、とても有意義な講演会となりました。

◆環境講演会

2月9日（金）に、etto 宮島交流館で、生活環境・福祉部会主催の環境講演会を開催しました。

今回は、「ゼロカーボンパーク宮島に暮らす私たちにできること～地球温暖化対策をすすめるために～」と題して、廿日市市のゼロカーボン推進室の職員からお話をいただきました。

世界的に異常気象をもたらしている地球温暖化の原因とも言われるCO₂（二酸化炭素）の排出量を2030年までに2010年比で約45%削減することが必要とされています。その中で、ゼロカーボンパークというのは、日本の国立公園の脱炭素化をめざすとともに、脱プラスチックも含めてサステナブル（持続可能）な観光地づくりを実現していくエリアとして、環境省が国内12カ所を登録しているものです。宮島もこれまでの取り組みが評価されて11番目に登録されたそうです。

CO₂排出量の約6割は、衣食住移動を中心とするライフスタイルに起因しているようで、私たちの日々の暮らしの中に、デコ活（脱炭素につながる新しい豊かな暮らし）を取り入れていく必要があるということでした。文化財保存の規制のある宮島では、太陽光発電など導入できないものもありますが、できる範囲でデコ活アクションを取り入れていこうということで、講演後、個人や地域で取り組めそうなことをアンケートに記入いただきました。「宮島は自然崇拜から始まっているので、ゼロカーボンパークの理念は大切に、宮島の環境負荷を軽減し、普遍的な価値を守り伝えたい。」という感想が寄せられました。

